

## 環境倫理学からエシカル購入の考え方の枠組みに対して言えること

- 1. 「強制」(欲望の抑圧、要塞型)ではなく「共生」(convivial)(ともに生き生き生きる)
  - 物質レベル、自然レベルでの持続可能性だけでなく、社会的な側面での公正さにも目を向けること
  - 精神的な側面での「豊かさ」「生き生きできること」「わくわく感」を大事にすること
  - 物質的環境・社会的環境・精神的環境をトータルに捉えて全体としての持続可能性を実現する
  
- 2. 自然(自然物、動物、植物、生態系)の静的保存から動的保全
  - 自然を形あるものとして、人為を排して(手つかずで)、現在ある状態で保存する(静的保存)のではなく、自然の営みをダイナミックな動きのあるものとして捉え、人間もダイナミックに関係を持ちつつ、自然と人間の関わり合いが永続的な関係を持てるようなあり方(動的保全)を考える
  
- 3. 「人間と自然との共生」も、「人と人との共生」もともに実現する
  - 「ひとと自然との関係」のみならず、「自然を前にしたひととひととの関係のよりよいあり方」も考える
  - キーワードは、「環境正義」「コモンズ」
  
- 4. 二つの社会的リンクの新たな統合の創成(「切り身」から「生身」へ)
  - 経済的なリンク(社会的・経済的リンク)と精神的リンク(文化的・宗教的リンク)の新たな統合を、再創造する形を考える